



代表取締役社長
内山 高一

お客さま・従業員・関係先の “安全・安心”を最優先に、 持続的な成長を目指します。

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々ならびに関係者の皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。当社の第74期中間期(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の事業概況についてご説明申し上げます。

■ 市場環境について

新型コロナウイルス感染症拡大が 事業環境に影響を与えています。

世界経済は新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動への影響が長期化し、回復までに時間を要しています。

昇降機業界では、各国の活動制限措置に伴う建設工事の停止や延伸、生産工場の一部操業停止など、事業活動に大きな影響が発生しました。経済活動は再開しているものの、感染再拡大の懸念による先行き不透明感が建設計画の再開と停滞の二極化をもたらしています。新設事業とモダンゼーション事業においては、中国は需要の回復が見られ、前年同四半期並みに推移し、その他の国では新規建築計画の停滞などで需要が減少しました。一方で、保守事業は社会基盤の維持であることから、事業は安定的に推移しました。

フジテックにおいては、お客さまや従業員、関係先の“安全・安心”を最優先に、感染症拡大の防止に努めています。また各国の感染状況や政府の施策に従い、在宅勤務や3密の回避などの施策を継続しています。

主な生産工場についてお伝えしますと、日本は部材調達に軽微な影響がありました。中国は政府の景気

刺激策もあり、3月以降はほぼ正常化しています。インドは一部のエリアでロックダウンが長期化していましたが、生産活動は継続している状況です。

■ 2021年3月期第2四半期業績について

減収減益も、ニューノーマル対応商品の 需要が伸びています。

2021年3月期第2四半期の業績は売上高764億円、営業利益50億円となり、前年同四半期比減収減益でした。

売上高は、新設工事の停滞を主な要因として、全セグメントで減収でした。期初に発表した計画に対する進捗率は46.3%です。

一方で、新しい生活様式に求められるエレベータの「非接触ボタン」や「混雑度表示」などの衛生面を強化する新機能に注目が集まり、国内に限らず海外市場にも展開を開始しました。今年9月には国内で既設エレベータに非接触ボタンを初納入しました。

営業利益は前年同四半期比18.9%減でした。計画に対する進捗率は47.1%です。社会基盤である保守事業への影響が限定的であったことや、グローバル市場展開によるリスク分散の効果も得られ、業績は改善傾向です。国内受注は同2.5%増加

売上高
764億円

営業利益
50億円

経常利益
56億円

親会社株主に帰属する四半期純利益
34億円

1株当たりの中間配当金
20円

を確保しています。

なお、受注残高は2,165億円で、前連結会計年度末比4.2%増です。

■ 中期経営計画の進捗と今後の見通しについて これからも持続的成長を目指します。

事業戦略においては、今後も安心して昇降機を利用いただけるよう、エレベータの「非接触ボタン」やエスカレータの「ハンドレール除菌装置」など新しい生活様式に対応した技術開発にも注力し、スピーディーに商品化しました。

中長期の成長に向けた生産能力強化のため、日本・台湾・インドで生産の自動化に取り組んでいます。

2021年3月期の連結業績予想は、期初に計画した売上1,650億円、営業利益107億円を据え置きました。日本と東アジアは、徐々に回復に向かうと予想しています。北米・欧州およびインドは新型コロナウイルス感染症からの経済回復が焦点となります。中間期の配当は期初に予定したとおり、20円といたしました。期末配当は30円を予定しております。

2019年4月からスタートした中期経営計画“*Innovation, Quality & Speed*”は、初年度に最終年度の目標を超える成果

を上げました。一方で新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経済活動の先行き不透明感が払拭できない状況が続いています。

これらを鑑み、またステークホルダーの皆さまから寄せられた貴重なご意見を踏まえ、感染再拡大の懸念による経済環境への影響を想定した、中長期的な視点に基づく“新たな戦略的方向性”を2020年12月4日に公表いたします。

株主の皆さまには、今後とも末永いご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年11月

2020年度予想 (単位:億円)

